2021 年 4 月 1 日
中小労組春闘推進会議

２０２１春季生活闘争　３月内決着の成果を踏まえた４月段階の取り組みに向けて

１．連合は、3 月 26 日に第 2 回回答集計（3 月 25 日 10 時時点）を発表した。
　回答引き出し状況は、平均賃上げ方式総額集計の全体・加重平均で 5,515 円・1.81%（昨年同時期 5,880 円・1.94%）と、現下の厳しい状況を反映した結果となっているが、中小労組の賃上げ率が全体を上回っていること、賃上げ分が明確にわかる組合の賃上げは加重平均で昨年を上回っていることなどから、「分配構造の転換に繋がる賃上げの流れを維持している」と評価している。

２．フード連合の春闘速報 No.5（3 月 31 日 13 時時点）の回答引き出し状況は、平均賃上げ方式総額集計の全体計・加重平均で 56 組合・5,767 円・1.87%（昨年同時期 61 組合・5,653 円・1.97%）となっており、賃上げの取り組みの拡がりを示す単純平均は、5,686 円・2.02%（同 4,947 円・1.88%）と昨年を大きく上回っている。規模間格差の是正につながる成果を得た昨年の結果を更に上回り、300 人未満の中小労組を中心に賃上げを実現している状況から、食品関連産業においても賃上げの流れは確実に継続していると受け止めている。

　1 年以上続いているコロナ禍の中、企業側は食の安全・安心や安定供給を守り続ける職場の頑張りを認めるものの、事業の先行き不透明感等を理由に要求実施に難色を示しており、厳しい交渉が展開されている。ベースアップ要求に対し有額を引き出すことが例年以上に難しく、交渉期間を延長して要求実施の必要性を再主張するなど、有額回答にこだわり、粘り強く交渉している。先行して取り組んだ加盟組合の努力・成果がうねりとなり、次に続く加盟組合に対し賃上げの流れを作りだしている状況と捉えており、「底上げ」「底支え」「格差是正」に向け、フード連合一体となってより強く取り組んでいく機運となっている。

３．フード連合の 4 月段階の取り組みについては、これまでのフード連合の収拾結果を踏まえ、下記の通り取り組むこととする。

未解決組合は、これまでの先行組合の努力・成果を土台とし、要求根拠（喫緊の課題の具体的解決や、目指すべき賃金水準への到達の必要性など）、特にコロナ禍の組合員の頑張りを通じて生み出された成果を前面に主張し、こだわった交渉を展開して、将来に勢いと期待が持てる回答を引き出す。

　引き続き、グループ大手組合、業種別部会、及び事務局が連携しながら未解決組合の交渉状況を把握し、中小労組春闘推進会議にて集約、具体的な支援に繋げていく。
　「経済の自律的成長」「食品関連産業で働く労働者の相対的地位向上」をめざし、最後の最後まで共に闘う。

以　上